

小学部第3学年 英語科 学習指導案

日時：201〇年〇月〇日〇校時

対象児童：3年〇組 児童 25名

指導者：宮崎 遼、FET1名

1. 教材名・単元 PLAYWAY to English 2 Pupil's Book (Cambridge University Press) Unit4: My body

2. 単元の目標

- (1) 体の部位の表現を覚えることができる。(知識・技能)
- (2) 文章で体の特徴を発表できる。(思考・判断・表現)
- (3) 体の特徴について積極的に伝えようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 児童について

本クラスは男子13名、女子12名、計25名のクラスである。アンケートの結果(2名欠席)からわかるように、本クラスには英会話に対して苦手意識を持っている児童が多い。英会話の学習は「とても好き」または「好き」と答えた児童が約6割いる一方、「英会話の学習は分かりますか」という質問に対しては「ふつう」または「できない」と答えた児童が約5割おり、「英会話の授業は好きだが、よくわからない」と考えている児童が多いことがアンケートの結果から窺える。また「英語を使ってみんなの前で発表することは好きですか」という質問に対して、「ふつう」または「嫌い」と答えた児童が約8割いることがわかった。その一方で、「英語の歌を歌うことは好きですか」という質問には「とても好き」または「好き」と答えた児童が約7割いることがわかった。

今回のアンケートの結果を踏まえて、本単元では、英会話が苦手な児童でも授業内容を理解することができ、また英語で発表する楽しさを実感できるように、足場かけを十分に行いながら、授業を展開していきたい。また児童の多くが英語の歌を歌うことが好きなので、ICTを上手に活用しながら、授業に取り入れていきたい。

アンケート項目	A	B	C	D
英会話の学習は楽しいですか。	6人 (26%)	8人 (35%)	8人 (35%)	1人 (4%)
英会話の学習は分かりますか。	4人 (17%)	7人 (30%)	8人 (35%)	4人 (17%)
英語を使ってみんなの前で発表することは好きですか。	3人 (13%)	2人 (9%)	8人 (35%)	10人 (43%)
英語を使って友達と交流することは好きですか。	6人 (26%)	6人 (26%)	6人 (26%)	5人 (22%)
英語の歌を歌うことは好きですか。	11人 (48%)	5人 (22%)	5人 (22%)	2人 (9%)
体の部位を英語で言うことはできますか。	4人 (17%)	9人 (39%)	9人 (39%)	1人 (4%)

※Aはとても好き/よくできる、Bは好き/できる、Cはふつう、Dは嫌い/できない

※割合は四捨五入しているため、合計が99%または101%になる場合があります。

(2) 教材について

本教材は PLAYWAY to English 2 Pupil's Book (Cambridge University Press) の Unit4 My body である。本単元では、体の部位の表現を学習する。新出単語は hand, mouth, head, ear, eye, nose, arm, tooth/teeth, shoulder, finger, knee, foot/feet, leg, toe(s), tummy である。これらの単語の意味、発音、スペルだけではなく、複数形（不規則変化も含む）や数と色を組み合わせた言い方についても学習する。本単元の終わりでは、PBL（課題解決型学習）を取り入れて、自分が描いたモンスターの体の特徴を It has ～という文章を使って発表する活動を行うことで、動機付けと学習内容の定着を図りたい。

(3) 指導にあたって

本校の研究主題・副主題の4つの観点に重点を置いて指導をする。

<国際教育>

文部科学省によれば、国際教育は「国際社会において、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成する教育」¹と定義されている。本単元では、体の部位の学習を通して、名詞の複数形（規則変化・不規則変化）や語順などの英語と日本語の違いを学んだり、グループ内発表、全体発表を英語で行ったりすることで、国際社会で主体的に行動するために必要な態度・能力の基礎を児童に身につけさせたいと考えている。

<言語活動の充実>

新しい学習指導要領では、「生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うために、言語活動を充実すること」²としている。本時では、描いてきた自分のモンスターを、グループ内や全体に発表する活動を通して、言語活動の充実を図りたい。その際、できる限り児童が苦手意識を感じることがないように、最初に JET と FET のモデル会話を提示し、発表のやり方を理解させてから、個人で練習を行わせ、そしてグループ内発表、全体発表へとつなげていきたい。

<ICT の活用>

本時では3つの場面において ICT を活用する。一つ目は、歌 (The Hokey Pokey) の場面で活用する。大型テレビに映された動画を見ながら体を動かしたり、歌ったりすることで、聴覚情報と視覚情報がつながり、体の部位の表現が理解し易くなると考える。二つ目は、全体発表の場面で活用する。大型テレビに発表者のモンスターの絵を映すことで、発表を聞いている児童は内容を理解し易くなると考える。三つ目は、モンスター当てゲームの場面で活用する。児童が描いたモンスターを大型テレビに映すことで、ゲームがよりわかり易くなり、児童の興味関心も高まると考える。

¹ 文部科学省. 「第1章 国際教育の意義と今後の在り方」.

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/houkoku/attach/1400594.htm

(参照: 2023/8/14)

² 文部科学省. 「学習指導要領『生きる力』」.

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1300990.htm (参照: 2023/8/14)

<評価活動>

本校英語科では、児童に授業目標が達成できたかを自己評価させる活動を行っている。本時でも JET と FET が目標を説明し、自己評価活動を授業の終わりに実施する。本時の目標は「英語を使って自分のモンスターを発表することができる」とし、振り返りシートでは A, B, C の三段階の自己評価を行わせる。また本単元を通して学んだことや頑張ったことも日本語で自由記述欄に記入させ、本時だけではなく、単元を通した振り返りを行わせたい。

4. 指導計画 (総時数 5 時間 本時 5/5)

時間	主な学習内容	指導上の留意点	具体的な評価規準
1	◆体の部位の表現を覚える。 Playway to English 2, pg. 22	□単語のみの指導に留める。 □複数形についてはこの段階では取り扱わない。 □デジタル教科書を使用し、児童の興味・関心を高める。	[知・関] 体の部位の表現を覚えて積極的に発言したり、活動に参加したりすることができる。 (発言・活動・ワークシート)
2	◆体の部位の表現を聞き、数や色などの特徴を理解する。 Playway to English 2, pg.23	□数と色が入った時の語順に気を付けさせる。 □feetやteethなどの不規則変化をする複数形に注意させる。	[知・関] 体の部位の表現を聞き、数や色などの特徴を理解することができる。 (発言・活動・ワークシート)
3	◆It has～の文章を用いて、体の特徴を表現することに慣れ親しむ。	□班で学び合いを行い、苦手な児童の支援をする。	[知・関] 数+色+体の部位の語順を理解し、It hasを用いて文章を作ることができる。 (発言・活動・ワークシート)
4	◆オリジナルのモンスターを描き、その体の特徴を表現する。	□複雑な色や数などは使わないように指導する。 □読み方のわからない単語があれば個別に指導する。 □本時で必ず絵と文章を完成させるように指導する。 □英語が苦手な児童でもワークシートにまとめられるように絵や色を使用させる。	[知・思・関] オリジナルのモンスターを描き、It has～の文章を用いて自分のモンスターの体の特徴を表現することができる。 (ワークシート)
5 (本時)	◆自分が描いたモンスターの体の特徴を友達と伝え合ったり、クラスに発表したりする。	□発表の方法は、JET と FET のモデル会話を通して理解させる。 □交流中は日本語で話してしまわないように事前に声掛けをする。	[知・思・関] 自分が描いたモンスターの体の特徴を、友達と伝え合ったり、クラスに発表したりすることができる。 (発表・ワークシート・振り返りシート)

5. 本時の学習（総時数 5 時間 本時 5/5）

(1)ねらい：英語を使って自分のモンスターを発表することができる。

(2)表現：My monster's name is _____. It has number + color + body part.

(3)展開

Time	Ss Activities	JTE /FET	□Notes ■Evaluation
3min	<Greeting> warm-up	Hello, everyone! How are you? What's the date today? How is the weather ?/What's the weather like today?	
5min	<Song>	The Hokey Pokey	□Use the big TV in order to help Ss sing with gestures.
2min	<Review>	Play Simon Says to review body parts.	□If possible, use plural forms as well such as legs or feet.
5min	<Introduction>	FET shows Ss his monster and explains it. <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">Key Sentences</p> <p>My monster's name is _____. It has _____.</p> </div> Tell Ss today's objective in Japanese and have them practice Key Sentences individually.	□Put his monster on the white board as an example.
15min	<Presentation>	1. Presentation in groups 2. Three students come up to the front and make a presentation about their monsters.	□JET gives Ss numbers (1~4) to decide the order to present in their groups. □Use the big TV when Ss make a presentation. ■Observe the presentations.
10min	<Game>	Monster Guessing Game Show Ss some of the monsters they drew. During the game, ask them, "What monster is this? It has three heads, two arms, eight eyes...etc", for example. They need to guess the monster with the hints the teacher gave them.	□Use the big TV to show the monsters Ss drew.
5min	<Closing> wrap up	Ss fill out a reflection sheet.	■Collect the reflection sheets and the worksheets.

6. 指導の実際

(1) 国際教育について

本研究授業では、小学 3 年生でも発表しやすいように、モンスターの体の特徴を次のようにワークシートにまとめさせた。下の写真のように、数は数字で記入し、色は色鉛筆で塗らせ、体の部位は描くように指導した。理由としては、小学 3 年生には一般的に英単語を書くことは難しく、また英会話が苦手な児童が授業についていけなくなる可能性があったからである。児童全員にワークシートを本研究授業の前に記入させ、発表する練習時間をしっかりと確保したことで、本時では児童の主体的・意欲的に発表する姿がたくさん見受けられた。ワークシートには、ハロウィンのフレームを使用したもので、授業後は教室に掲示をし、異文化と関連を持たせることもできた。

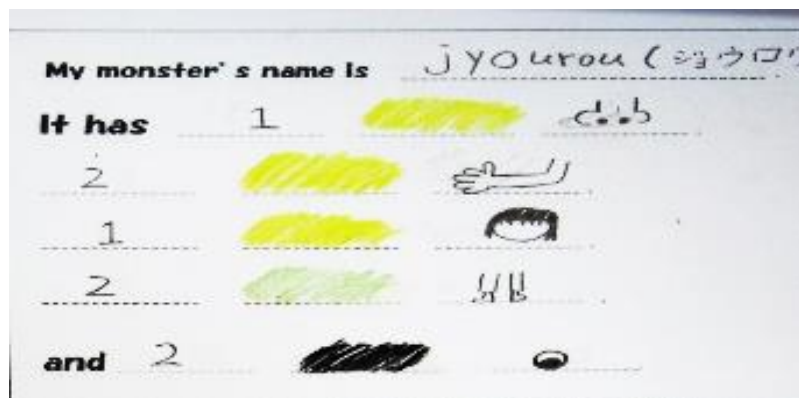


写真 1 英会話が苦手な児童でも取り組めるように工夫した。

(2) 言語活動について

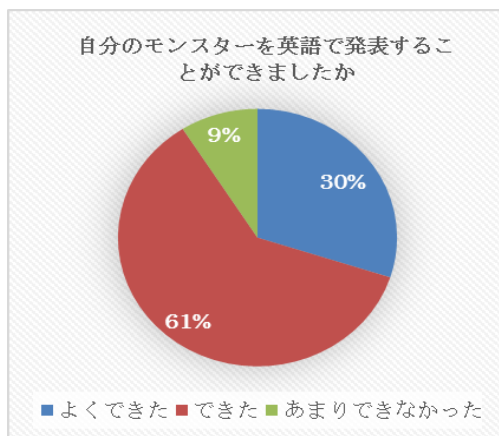
本研究授業では言語活動の充実を 2 つの場面で行った。最初の場面はグループ内発表である。先に述べた通り、ワークシートを工夫して英会話が苦手な児童にも対応できるようにしたことで、児童は自分が描いたモンスターを活発に発表していた。またワークシートの大きさを A3 サイズにしたことで、児童はワークシートを半分に折って、聞いている人たちに絵を見せながら発表することができた。二つ目の場面は、全体発表である。グループ発表をしてから全体発表という流れだったので英会話が苦手な児童も上手に発表することができた。

(3) ICT の活用

導入の歌の場面では、普段から ICT を使って英語の歌を歌っていたので、本番でも児童は抵抗なく元気よく歌うことができた。児童は動画を見ながら体を動かして、楽しみながら体の部位の表現を復習していた。また英語の歌は、英会話の授業への気持ちの切り替えにもつながったと考えている。全体発表の場面では、少し声の小さい発表者もいたが、大型テレビにモンスターが映し出されていたので、聞いている児童にとって、とてもわかりやすかったのではないかと考える。最後のゲームの場面でも同様に、児童が描いたモンスターを大型テレビに映して行ったが、わかりやすい活動になったと考える。このゲームでは児童全員のモンスターを大型テレビに順番に映したので、子どもたち一人ひとりが授業に参加している感覚を持つことができたのではないかと考える。

(4) 児童の変容

振り返りシートの結果は次の通りである。「自分のモンスターを英語で発表することができましたか」という質問には、30%が「よくできた」、61%が「できた」、9%が「あまりできなかった」と回答し、90%以上が肯定的な回答をした。授業の前に実施したアンケートでは、「英会話の学習は分かりますか」という質問に対して、「ふつう」または「できない」と答えた児童が約50%、「英語を使ってみんなの前で発表することが好きですか」という質問に対して「ふつう」または「嫌い」と答えた児童が約80%いたことを考えると、本単元の学習を通して児童の英会話に対する苦手意識に変容が見られたと考えられる。また振り返りシートの自由記述欄にも、発表する楽しさを感じたり、発表することに自信を深めたりしていることが窺えるコメントが多く書かれていた。



振り返りシートの結果
90%以上が「よくできた」または
「できた」と回答した。

振り返りシートの児童のコメント（一部抜粋）

- ・一生懸命英語の体を覚えたのでとてもいい発表になったと思います。
- ・難しかったけどとても楽しかったです。自分のモンスターを作れてうれしかったです。
- ・体の部分を暗記できるようになりました。あと自分で英語を使って説明するのが楽しかったです。
- ・体の部分がわからない時は友達に聞いたり、先生に教えてもらいました。これからは体の部分を全て覚えて外国の人と会話できるようになりたいです。
- ・モンスターの発表をくじで決めて僕が当たってモンスターを発表しました。英語はあまりできないですが、できました。なのでとてもうれしかったです。

(5) 成果と課題

○（成果）

- ・アンケートの結果からわかるように児童の英会話に対する苦手意識に変容が見られた。
- ・授業のねらいをシンプルにし、一貫性を持たせたことで児童が理解しやすく、主体的・意欲的に取り組むことができる内容となった。
- ・FETと計画的に準備を進めたため、本番では連携がとても上手いき、授業がスムーズに流れた。

●（課題）

- ・モンスター当てゲームはカルタにして班で活動できるようにしてもよかったかもしれない。
- ・英会話が苦手な生徒に対しては引き続き支援をしていく必要がある。